

マニュアルの確認と徹底について

レフェリーズ・マニュアル(ツー・パーソン・システム, スリー・パーソン・システム)の以下の点において, 若干の混乱と不徹底が見受けられますので, 次のように統一見解を通知いたします。

関係各位におかれましては, 正しくすみやかな伝達, および確認と徹底をお願いいたします。

1. ツー・パーソン・システム

7.4 ファウルのアとのスイッチ

ファウルの判定のあとは, 両審判は, 原則としてコート上の位置を交換する。

ただし, 次の場合は, コート上の位置を交換しない。

1. リード・オフィシャルがオフェンシヴ・ファウルを宣したとき

ファウルを宣したリード・オフィシャルは, スコアキーパーにファウルの伝達を終えたあとあらたにトレイル・オフィシャルになる。

トレイル・オフィシャルは, 反対側のコートのエンド・ラインに入り, あらたにリード・オフィシャルになる。

2. トレイル・オフィシャルがディフェンシヴ・ファウルを宣したとき(7.8.1, 7.9.2参照)

ファウルを宣したトレイル・オフィシャルは, スコアキーパーにファウルの伝達を終えたあと, 引きつづきそのコートでトレイル・オフィシャルになる。

リード・オフィシャルは, 引きつづきエンド・ラインでリード・オフィシャルの位置を維持する。

上記の「ファウルのアとのスイッチ」については, 次のように確認し, 徹底してください。

考え方:

審判がファウルを宣する可能性は, 「リード・オフィシャルがディフェンシヴ・ファウルを宣する場合」が多い。

したがって, ファウルを宣した審判が次に攻撃が行われるコートでリード・オフィシャルになってしまうと, 同じチームのファウルをつづけて宣する可能性が高くなってしまう。

このような状況をなるべくつくりないようにするために, このメカニック・マニュアルが考えられたのである。

ファウルを宣し, スコアキーパーに伝達をした審判(レポーター・オフィシャル)は, 伝達を終えたあとは, 次に攻撃が行われるコートでのリード・オフィシャルにならないようにする。

フリースローを行う場合も同様とする。

2. スリー・パーソン・システム

8. チャージド・タイム・アウトと交代

8.1 チャージド・タイム・アウト

1. チャージド・タイム・アウトの請求や交代の申し出があったときは、スコアキーパーはそれらが認められる時機に、合図器具を鳴らして審判に知らせる。
オフィシャルズ・テーブルにもっとも近いところにいる審判は、笛を鳴らし、チャージド・タイム・アウトあるいは交代の合図をする。
2. チャージド・タイム・アウトを認めたときは、タイム・アウトを認めた審判がセンター・オフィシャルになり、その審判は、オポジット・サイドのセンター・サークルの外側で、オフィシャルズ・テーブルに向かってセンター・ラインをまたいで立つ。
リード・オフィシャルあるいはトレイル・オフィシャルがタイム・アウトを認めた場合は、そのときセンター・オフィシャルであった審判がタイム・アウトを認めた審判と位置を交換してあらたにリード・オフィシャルあるいはトレイル・オフィシャルになる。
あらたにリード・オフィシャルとトレイル・オフィシャルになった審判は、オポジット・サイドのフリースローの半円の外側で、フリースロー・ラインの延長線をまたいで立ち、それぞれのチーム・ベンチを見守る。

上記の「チャージド・タイム・アウトと交代」については、次のように確認し、徹底してください。

1. の [] 内について「オフィシャルズ・テーブルにもっとも近いところにいる審判」とは、「スコアキーパーにファウルを伝達した審判(レポーティング・オフィシャル)」以外の2人のうちの近いほうの審判のことを指している。
したがって、ファウルを宣した審判は、ファウルを伝達したあとは、チャージド・タイム・アウトや交代の確認にはかかわらないで、すみやかにオポジット・サイドに移動しなければならない。
2. について「タイム・アウトを認めた審判がセンター・オフィシャルになる」ということが徹底されていないので、徹底すること。

以上